

草の芽や兄となりたる兄の背伸び

勝山美枝

【評】

「草の芽」にこめられた詩情あふれるこの作品は、草の力強い芽吹きを句の中にきちんと自分の視点や感情が読み込まれていて素晴らしい作品である。春に萌えだす草の芽は、大地の息吹の現れであり、新しい命の芽生えでもある。兄となつた兄は、ワクワクしたり、ちょっと不安になったりしていたはずである。「兄の背伸び」の措辞が春の息吹きにある健やかな成長を詠って巧みである。